

本庄市

次期高齢者福祉計画及び介護保険事業 計画策定に関する調査

(福祉団体・ボランティア団体・NPO 法人等対象)

結果報告書

令和5年4月

本庄市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の概要.....	1
	(1) 調査目的.....	1
	(2) 調査対象及び調査方法.....	1
	(3) 配布数及び回収結果.....	1
2	本調査報告書の基本的な事項.....	1
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて.....	1
II	調査結果.....	2
1	高齢者に関わる活動について.....	2
	(1) 現在取り組んでいる高齢者に関わる活動.....	2
	(2) 今後取り組みたい活動・取り組む上での課題.....	3
	1-1 具体的な内容（居場所づくり）.....	3
	1-2 課題（居場所づくり）.....	4
	2-1 具体的な内容（生きがいづくりや健康づくりへの支援）.....	5
	2-2 課題（生きがいづくりや健康づくりへの支援）.....	6
	3-1 具体的な内容（外出の支援）.....	7
	3-2 課題（外出の支援）.....	7
	4-1 具体的な内容（簡易な家事の支援）.....	8
	4-2 課題（簡易な家事の支援）.....	8
	5-1 具体的な内容（声かけ・見守り・相談）.....	8
	5-2 課題（声かけ・見守り・相談）.....	9
	6-1 具体的な内容（認知症の方への対応・支援）.....	9
	6-2 課題（認知症の方への対応・支援）.....	10
	7-1 具体的な内容（災害時における高齢者への支援）.....	10
	7-2 課題（災害時における高齢者への支援）.....	11
	8-1 具体的な内容（関係機関との連携）.....	11
	8-2 課題（関係機関との連携）.....	11
	9-1 具体的な内容（その他）.....	12
	9-2 課題（その他）.....	12
	(3) 地域包括ケアシステムについての認知.....	13
	(4) 自由意見.....	14

I 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、新たな「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、市内の福祉関係団体の活動状況や課題等を把握し、計画の基礎資料とすることを目的に実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	本庄市内の福祉関係団体
配布数	257
抽出法	任意抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	令和5年2月
調査地域	本庄市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	257
有効回収数	168
有効回収率	65.4%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合もある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問である。したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合がある。
- ④集計等の都合により、グラフ内の選択肢の表記は、原文と完全に一致しない場合がある。

Ⅱ 調査結果

1 高齢者に関わる活動について

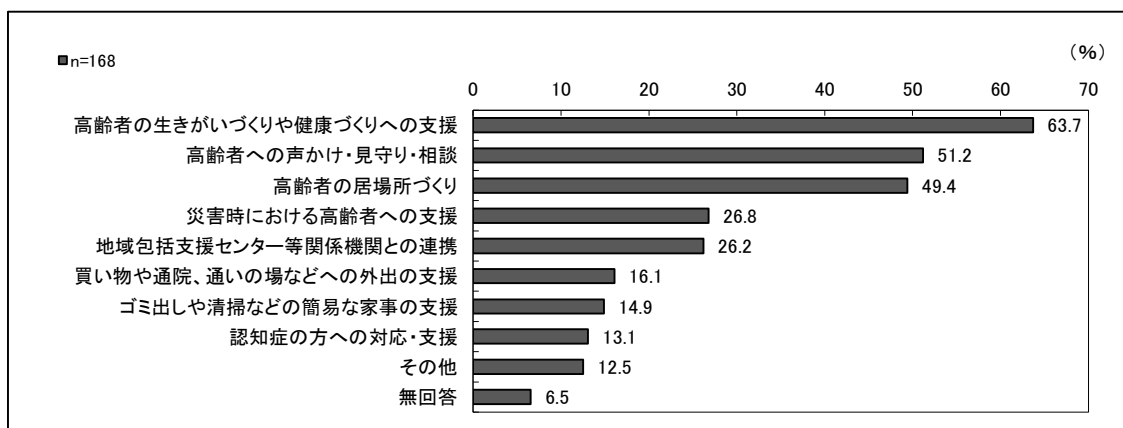
(1) 現在取り組んでいる高齢者に関わる活動

問2 貴団体において、高齢者に関わる活動として、現在取り組んでいるものをご回答ください。【複数回答】

- 「高齢者の生きがいづくりや健康づくりへの支援」が第1位。「高齢者への声かけ・見守り・相談」、「高齢者の居場所づくり」などが続く。

現在取り組んでいる高齢者に関わる活動については、「高齢者の生きがいづくりや健康づくりへの支援」(63.7%)が最も多く、次いで「高齢者への声かけ・見守り・相談」(51.2%)、「高齢者の居場所づくり」(49.4%)、「災害時における高齢者への支援」(26.8%)、「地域包括支援センター等関係機関との連携」(26.2%)、「買い物や通院、通いの場などへの外出の支援」(16.1%)、「ゴミ出しや清掃などの簡易な家事の支援」(14.9%)、「認知症の方への対応・支援」(13.1%)となっている。

図表 現在取り組んでいる高齢者に関わる活動（全体／複数回答）



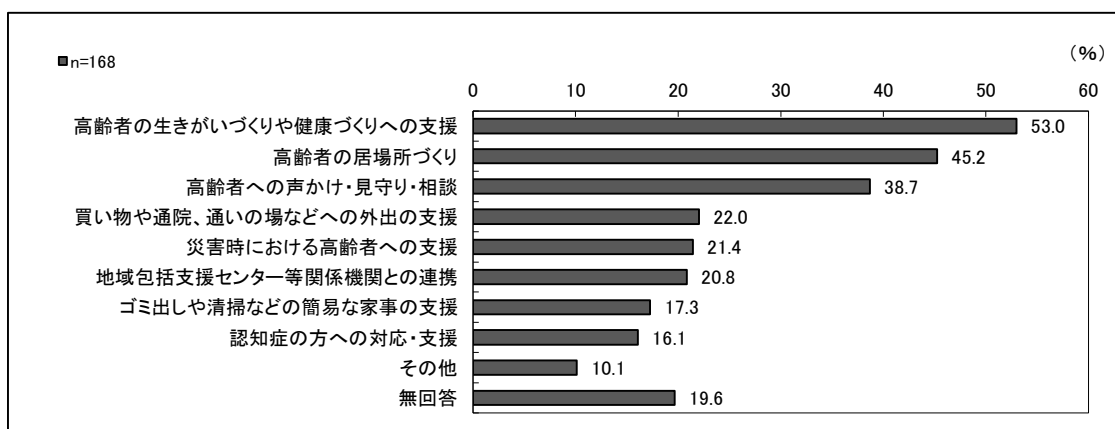
(2) 今後取り組みたい活動・取り組む上での課題

問3 貴団体において、高齢者に関わる活動として、今後取り組んでいきたい活動をご回答ください。また、取り組む上での課題などありましたらご回答ください。【複数回答】

- 「高齢者の生きがいづくりや健康づくりへの支援」が第1位。「高齢者の居場所づくり」、「高齢者への声かけ・見守り・相談」などが続く。

今後取り組みたい活動については、「高齢者の生きがいづくりや健康づくりへの支援」(53.0%)が最も多く、次いで「高齢者の居場所づくり」(45.2%)、「高齢者への声かけ・見守り・相談」(38.7%)、「買い物や通院、通いの場などへの外出の支援」(22.0%)、「災害時における高齢者への支援」(21.4%)、「地域包括支援センター等関係機関との連携」(20.8%)、「ゴミ出しや清掃などの簡易な家事の支援」(17.3%)、「認知症の方への対応・支援」(16.1%)となっている。

図表 今後取り組みたい活動・取り組む上での課題（全体／複数回答）



具体的な内容や取り組む上での課題については以下のような回答があった。

1-1 具体的な内容（居場所づくり）

- 運営費の捻出。
- サロンの発足。
- 男性の方の協力が欲しい。
- 特に高齢者に限らず各駅で案内休憩等をしている。
- 健康づくり活動の支援。
- サロンの継続。
- ひとりではない！と思ってもらうように努力します。
- 日本的行事（ひな祭、端午の節句、七夕等）を取り入れた活動もしてみたいです。
- 筋力トレーニングなど行う。
- 自治会の様々な行事への参加呼びかけ。
- 気軽に話し合いのできる場所。
- 高齢者がリラックスできる室内環境の整備。

- 地域における「話を聞く会」を開催したい。
- 教室のレベルアップ。
- ミニサロン（ご近所サロン）を計画している（50 歩や 100 歩位で）。ご近所の高齢者で一般のサロンまで歩いていけない人たち 5、6 人で集まるサロン。
- 地域の方々が集まり、おしゃべりを楽しむ。
- 毎月第 2 土曜日、年 2 回のウォーキング。
- 毎週火曜日のふれあいサロン。
- 居場所
- 健康サロンの拡充、老人会を名称変更し拡充。
- サロンの設置。
- 自治会地域内の場所の確保に苦慮。
- いきいき教室、市民総合大学、筋力アップ体操、朝の体操等。
- いきいきサロン等を活用し、集まっていただくこと。
- 吉田林自治会館で活動しているが、歩いて来る人や車で来られる人は良いが、来ることができない人のこと。
- 今よりさらなるつどいの場を提供、もっと自由に使ってもらいたい。山間部なので交通手段がない。車まで来られない人がいる。
- 毎月一度計画している。
- 単身世帯のサロンに参加者を増やす。
- 週 1 回のはにとれ体操。
- サロンに参加するよう誘うが、話にもものらない。
- コミュニティ広場。
- サロンだけでなく、土曜日等のランチ会を始めたい。
- スマホ教室。
- 毎週金曜日午前 10 時から 12 時まで自治会館でサロンを開催している（月 2 回第 2、第 4 の月曜日）。高齢者の相談を行っていききたい。
- 自治会、老人会、サロンとの連携を図り、誰もが参加できる行事の検討を行い、人と人が交流できる場所づくりに努める。
- 近くで高齢者が語り合える場所づくり（例えば家庭利用）等。
- 現行を続行していく。
- ふれあい祭り等、ミニデイサービス参加（JA）。
- 市、旭シニアクラブ活動への参加。
- 主に自治会館にて。
- 新しい所はない。自宅。
- 仲町会館・あたご山小公園の活用。
- コロナ禍で集まることができず再会しづらくなった。
- 従来通りの月 1 回の集まる輪投げ練習。（沼寿会としての大会づくり）。
- 遊楽荘を利用しカラオケ、映画、筋トレを行う。
- 誰でもが参加できる行事の検討を行い、人と人が交流できる場所づくりに努める。
- 検討事項、茶話会。
- 囲碁、将棋愛好会をつくり、月に 1～2 回開催予定。
- 共通の話題についての談笑の場を活用する。
- ふらっと立ち寄れる場所が欲しい。
- 仕事の提供やサークル活動、気軽に立ち寄れるイベントの開催。
- 宅地内のプレハブを活用した居場所づくり。

1-2 課題（居場所づくり）

- サポートスタッフの不足。
- 現在取り組んでいる内容の継続（体操、ミニコンサート、講義等）、参加者に楽しんでもらいたい。
- 参加したくてもできない方々への対応。
- 皆が朝起きて、行きたいとなるように工夫している。
- 設備費の補助が欲しい。
- プライバシー保持にどう対処するのか？
- リーダーの養成。
- 通えない人（交通手段）はどうしたら良いか。

- 最近人数が減ってきているので内容を考えたい。
- 提供者が見つからない。
- 老人会はイメージアウト。行き来の送迎について。
- 適切な場所がない。
- 市主催、グループ主催に今後もお誘いします。
- 予算面については自治会等にお世話になっております。
- 地域サロン強化、ウォーキング（ハイキング整備）、運用資金がない。エアコンやトイレの維持ができない。
- コロナ禍で毎月取り組んだ方がよいのか、悩んでいる。
- 高齢者は足腰が弱って外出が減っている。
- それぞれの体力に合わせる。次の代表者になる方がいない！！
- 単位クラブに講師派遣可能か？
- 安全性の確保。
- 輪投げ、グランドゴルフ、筋力トレーニング。輪投げ→自治会館（毎週水曜日）グランドゴルフ→本庄市旭地区にて、筋力トレーニング→自治会と、ウォーキング→春秋に実施。
- 自治会館で食事会など行いたい、エレベーターがないので実行できない。
- 活動の指導者？
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- 参加者が少ない。
- 会員の方々が80歳以上のため、所定の場所に集まることが困難な人が多いので。
- 身体の不自由な方の送迎。
- 筋力トレーニングと談話会を主としたい方と毎月1回の行事をこなすことに苦労します。
- 高齢者の送り迎えの運転手がだんだん高齢になっているので、事故などを心配している。
- サークルを立ち上げる場合の費用と活動する人員確保。
- 月2回実行。今後は増やす予定。
- コロナ対策。消毒、換気に気をつけて。

2-1 具体的な内容（生きがいつくりや健康づくりへの支援）

- はにとれは少しきついのでラジオ体操のCD？カセット？希望します。
- サロンなどで参加者が持っている特技などを聞いて、その特技を他に指導してもらい、やりがいや自信を持ち、役に立つことで元気になれるような参加型サロンを目指します。
- 健康づくり体操の支援、老人クラブ活動への支援。
- サロンの継続。
- はにぼん体操だけでなく、リズム遊び・ラダー等の器具を活用していきたいです。
- 場所をあまりとらない運動を行う。
- 当面は、現在の内容で継続予定。
- サロンの開催。
- いきいきサロンのリーダーが高齢になって活動の停止が考えられる。
- 筋トレ、脳トレなどの時代に応じた進化。まず、はにとれにくることを呼びかける。
- ふれあいサロン。
- カラオケや輪投げの再開。
- 会場に訪問してもらえれば可能。
- 教室のレベルアップ。
- 笑いやお口の体操、おしゃべりを。
- 参加者自らの運営。
- はにとれ、コグニサイズ等を取り入れる。
- ラジオ体操、ゲーム（ボウリング、輪投げ、玉入れ）。
- はにとれの健康体操を中心に、外のレパートリーを取り入れる。
- 現在行っているサロンを今後も続ける。
- 自治会館を活用した行事を検討。
- サロンは参加者が少ない。
- いきいきサロンの参加者を増やしたい。

- サロン等で他の健康体操の取り組み。
- 健康サロンの継続、グランドゴルフ会、カラオケ会の拡充。
- 健康体操、ゲーム遊び、ウォーキング等。
- 今までの一連の運動と、高齢者の運動機能 up をさらに進めていきたい。
- いきいき教室、市民総合大学、筋力アップ体操、朝の体操等。
- できる範囲で椅子に腰掛けながらの体操等を取り入れております。
- 毎週土曜日の筋力 up 体操は今年 11 月で 10 年になります。今後もずっと続けていきたい。
- サロン活動の充実、健康に関する講話の実施など。
- サロン参加をすすめる。
- 体操の指導者がコロナ禍で退任し、館長が研修を受けて実施している。
- 週 1 回のはにとれ体操。
- 年 2 回の体力測定を行い、フィードバックをする。
- カルチャー教室。
- 平均年齢 84 歳のサロンのため、行動等につづけている。
- 健康講座開催の充実。
- 訪問活動の充実化を図り、一人ひとりの悩み事を把握し、関係機関との連携を対応していきたい。
- 筋トレ、脳トレ、お口の体操。
- 自治会の行事参加。
- グランドゴルフ、ウォーキングの実施。
- グランドゴルフ、健康づくり。
- 郊外散歩～市内歴史散歩。
- 4 年度市老連活動、ヨガ、ストレッチ、スタジオ、筋トレ、スマホ教室参加者より好評です。5 年度も続けてください。支援になります。
- カラオケ、映画、筋トレを中心に話し合いを行う。
- 一人ひとりを得意なものを生かした活動、健康講座を開催の充実。
- 継続しての健康体操。
- グランドゴルフ、輪投げ、ボッチャ、その他。
- 簡単な手芸、筋トレ、グランドゴルフ。
- いきいきサロンのような気軽に参加できるような集まり。
- 市民向けフレイル予防教室の開催。

2-2 課題（生きがいづくりや健康づくりへの支援）

- サポートスタッフの不足。
- 現在取り組んでいる内容の継続（体操、ミニコンサート、講義等）、参加者に楽しんでもらいたい。
- 参加者の人にもアイディアを出してもらいみんなで盛り上げていく。
- 膝・腰痛にならないような動き方。
- 後継者不在。
- スタッフや会員の高齢化による研修の不参加。
- 楽しくおもしろく、また来たいとなるように！
- 参加者が少ない。
- コロナ禍で集まりが停滞、再開しづらい。
- 受入側も高齢者、積極的な活動は困難。
- リーダーの養成。
- 冬は出にくい。暖かい日を設定予定。
- 民生委員や自治会の人々の支援。
- 個々の体力に応じて無理のない様声かけする。
- 男性の参加が少ないので、対策を考えたい。
- 人間関係をまとめるのが。
- 行き来の送迎について。
- 市主催、グループ主催に今後もお誘いします。
- 新しい人が来ない。リーダーさん問題。
- 高齢者は足腰が弱って外出が減っている。
- 専任の指導員を持っている。（筋トレ）。

- それぞれの体力に合わせる事。
- 速い動作は無理なのでゆっくりのペースで行っている。
- リーダーの後継者がいない。
- 参加への誘い方。
- 会員の減少がある。
- 場所がない、指導者がいない。
- 若い老人の参加が少ないので、なかなか大変。
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- 役所の退職者、民生児童委員の協力が必要。（現、元）。
- 指導者がいない。
- 会員の方々が 80 歳以上のため、所定の場所に集まることが困難な人が多い。
- 現在実施していることをより充実させる。
- 参加者のやる気。
- 回数を増やす上でのサポーター会員の確保。
- 毎月 1 回は出前講座希望。

3-1 具体的な内容（外出の支援）

- 買い物より通院の方が困ると言った意見もありました。市や他の機関の連携が必要。
- 家族がいない場合運転免許証返上した後の買い物や通院。
- 回覧等で呼びかけてみる。
- 声かけが限度。
- 教室会員に近所の手助けを呼びかける。
- ミニサロンでまとめ買いができれば応援する。
- 近くに身寄りのいない高齢者世帯の支援。
- 地域福祉課と連携し支援。
- 行っていますが、困難しています。
- 足の確保をどうするか。
- 近隣のゴミひろい。
- 移動販売車の利用（大変助かっている）。
- サロンとしては取り組んでいない。
- 民生委員、老人会、自治会との連携を図り、仮称：困りごと相談隊を立ち上げ活動計画を推進していきたい。
- スーパー等への買い物同行。通院への送迎。
- 無料、割引タクシー出張販売の促進。
- 回覧や声かけをやってみたい。
- 老人会と自治会との関係を図り、困りごと相談隊を立ち上げ、活動計画を推進していきたい。
- タクシー券や福祉タクシーの充実が望みです。
- 買い物代行業務等の拡大。

3-2 課題（外出の支援）

- サポートスタッフの不足。
- 相談窓口がわからないのでこれらを考えたい。
- 要請したい方々とのシステムの構築。
- 気楽に賛同してくれるか難しさはあると思う。
- 各種事故に対する責任。
- 交通手段が確保できるか。ルール化必要。
- 行える日もあるが人員不足でできない日もある。
- 指定袋の配布。
- タクシー業界、及び運送法等の課題。
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- 車を提供する人がいない。
- 会員の仲間が皆高齢で、車での外出は控えたいです。
- 状況を正確に把握し、対象者を設定。
- はにぼん号の常時回遊を希望します。

- 需要の把握と従事する会員の人員確保。

4-1 具体的な内容（簡易な家事の支援）

- 役員による奉仕。
- ゴミ収集場所が遠く大変なので前日に出せるようにしてほしい。
- ボランティア団体（まごの手サポート牧西）への支援。
- 現在、ビン、缶と新聞関係の回収に参加。
- 依頼、要望等あれば対応。
- 教室会員に呼びかける。
- 本来行政がすべきことと思うが、たぶんできないとなるのだと思う。
- 行っているが特定の人に限定してしまう。
- 毎週月木の可燃ゴミ、第一、第三水の危険物のゴミ出しを手伝いながら見守りもかねています。
- アパートに住む独居人。
- サロンとしては取り組んでいない。
- 仮称：困りごと相談隊を立ち上げに取り組んでいきたい。
- 家内の清掃等の支援。
- 不用物の処理、重くて運べない物。
- 本人、家族。
- 資源回収（ビン・缶）及び新聞回収に参加。
- 家事援助サービス業務等の拡大。

4-2 課題（簡易な家事の支援）

- サポートスタッフの不足。
- 信頼関係の構築。
- 支援を必要としている方々への声かけ。
- プライバシーの問題。
- 近所の方が気軽に声をかけてくれるか。
- 隣の人や、まわりの人、支会の人で可能な人がゴミ出しを支援する→なかなか人がいない。
- 人員不足（協力者不足）。
- 窃盗等が最近特に多く発生しているため、民生委員証を必ず提示しております。
- 家族のいる人、サロンに参加している人等は心配いらないが、一個人ではどうにもならない。自治会、民生児童委員、プラス見守り隊みたいなものがあれば活動しやすいのでは？
- 高齢者からの信頼または高齢者の意識。
- 気安く言ってくれるか？
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- 自分がゴミ出しがやっとの状態。他の人のお世話はできない。
- 団体の1人というよりも、隣の方にお世話になることが良いと思います。
- 対象者の現状把握。
- 需要の把握と従事する会員の人員確保。

5-1 具体的な内容（声かけ・見守り・相談）

- 民生委員との連携。
- 現状維持。
- 高齢になると外出するのもおっくうになってしまいます。
- 防犯パトロールを定期的に行っている。
- 定期的に見守る。
- 広報紙・自治会費の集金や配布時に。
- 訪問しながらの会話（飲み物やゴミ袋を配布）。
- 依頼、要望等あれば対応。
- 引きつづき、会員に呼びかける。
- 福祉活動（委）会で毎回お願いしている。
- 家庭で介護されている人の介護虐待予防のための傾聴活動を広げていきたいです。

- 後見制度の相談（電話等に気楽に相談できることの拡大）。
- （散歩の時）。
- 本庄市避難行動要支援宅へ民生委員さん中心に訪問していきたい。
- 今まで以上の深いつながりを持つ。
- 通常と違う状況が見られた時に隣家の人に話を聞く。
- 回覧と広報の配布時、声かけ配布。
- 民生委員を中心に声かけ、健康相談実施を継続実施。
- 広報配布時の手渡し。
- 体調をくずした時にも、声かけ、見守りの実施。
- 民生委員、環境衛生推進委員、自治会役員で行う。
- 一人住まいの高齢者への連絡の取り方。
- 現在の取り組みを続ける。
- 体操に来ている人には声かけできるが、（ひとり暮らしの人もたくさんいると思うが）来てくれない人などはわからない。
- サロン開催時に近隣の人たちの様子を聞いたり相談を受ける。
- 民生委員と一緒に見守りをを行っている。
- 体操と同時に笑いの場にしたい。
- サロンとしては、週1回サロンの開催時声かけ・見守り、相談を行っている。
- あいさつ運動を取り入れ、声かけ・見守り・相談を行っている。
- 民生委員との密接な連携を図る。
- 役員が声かけ。寿楽会の会員外をどうするか。民生委員との協調等がなかった（コロナ対策のため）。
- 散歩時の声かけ。
- 訪問しながらの会話。
- 見守りとして正月のもち、節句ののりまき、お祭りのおこわ等を届ける。
- あいさつ運動を取り入れ、声かけ・見守り・相談を行っている。
- 行き会った時の声かけ。
- これから役員ごとに担当している会員への声かけ。
- 近所の方や近くを散歩している方へのあいさつをすること。
- 会員自らの知人、友人への入会勧誘。

5-2 課題（声かけ・見守り・相談）

- サポートスタッフの不足。
- 一人でも多くの人に声かけして週1のサロンへ出向き健康づくりをおすすめしてほしいです。
- 声かけをする人（支会長）の高齢化が進んでいる。
- 各団体等で認知（発見）するのは難しい。相談事の内容をどのように、どこに伝えるか。
- 対応できる人がいない→順番制など考える。
- 民生委員になる人がなかなか見つからない。また、年齢も70歳以上となり課題となっている。
- 行う時間帯。
- 緊急時等の連絡先の整備。
- 当自治会では顔見知りで特に問題ない。
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員が少ないこと。
- 相談者は行政へ行く人が多い。
- 役員の方々に声をかけてもらっていますが、高齢者への声かけということにはなっておりません。
- どこまで踏み込んでよいのか。

6-1 具体的な内容（認知症の方への対応・支援）

- 成年後見人の活用。
- 会員が持っている資格を生かし、活動拡大を図ります。認知症の方には、会員数名のアロマテラピー有資格者による、精油の香りで脳への刺激を促したり、手浴やハンドセラピーで精神的にもリラックスでき、認知症の周辺症状の不穏や睡眠障害の

改善が見られるとの報告もあり、ケアしている人の負担軽減につながるので、カフェで実施したい。

- 現状維持。
- 民生委員との連携。
- 地域への活動と捉えるものと思う。
- 認知症サポーター研修の受講を計画する。
- サロンに参加要請し、皆で声かけし楽しんで帰宅。
- 成年後見人等の受任の支援。
- ご家族の理解と地域住民の共通認識が必要かと。
- 民生委員が対応。
- サロンとしては健康講座を取り入れていきたい。
- 認知症への対応講座を開催し、地域でも生活できる地域づくりをしていく。
- 民生委員との密接な連携を図る。
- ケアマネージャー。
- 認知症への対応講座を開催し、地域でも生活できる地域づくりをしていく。
- 見守り、相談。
- 相手を傷つけることのないよう対応方法・知識の習得。
- 話を聞いてあげる、サロンへの参加を声かける。
- 家事援助等の業務を通じた高齢者の健康状態の把握と介護事業者への連絡。

6-2 課題（認知症の方への対応・支援）

- 制度の未周知。
- 参加者は皆高齢者。
- 研修だけで、実際対応ができるか？
- プライバシーへの配慮。
- 家族、本人の協力が必要。
- 認知症になっても本人は自覚しておりません。早期に医療が受けられるようにすることは、家族間でバラバラだと感じています。
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- これからは私が助けてもらう立場なので。
- 行政にお願いするしかない。
- 個人情報やらでまわりの方はわかりません。
- 症状の程度によっては判断が難しい。
- 認知症と断定する判断基準は。

7-1 具体的な内容（災害時における高齢者への支援）

- 防災訓練の実施。
- 昔ではないが、向こう三軒両隣と言う言い方がありますが、お互いに助け合うことが大切である。
- グループづくりを支援していく。
- 行政指導の支援活動の実施。
- 各個人で対応することだと思う。
- 各地区で福祉（委）が把握しているので活用する。
- 被後見人等やその親族の安否の確認の方法。
- あらかじめ要支援者と支援者を決めておく。
- 災害時には、自治会長が班長に指示し、行動体制を取る。
- 緊急時の移動手段の提供。
- 避難行動要支援者名簿の現行化。
- 生活用品（食料など）の買い物支援。
- 会館等が平屋のため、高台の集合場所が必要。
- 対象者の居場所及び対応支援者不足。
- 高齢者宅の近くの家の方に声かけをお願いします。
- 該当者を把握しネットワークづくり。
- 行政対応に協力。
- 自治会をはじめ地域が一体となって取り組む。

- 茶話会の時に話題としているが、具体的な支援方法の話し合いはしていない。
- 民生委員、老人会、自治会と連携した、昨年5回の防災講座を生かし、避難行動要支援者の避難支援計画を作成し、誰ひとり取り残さない地域づくりを進める。
- 行政指導支援活動。
- 会員のほぼ全員が高齢者であり、単身世帯者を対象とする。

7-2 課題（災害時における高齢者への支援）

- 避難行動要支援者の確認。
- 新しいマップ等で計画している。
- 支援の訓練も必要かと。
- 訓練はできているが、経験者がいない。
- 市の避難支援計画が欲しい。
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- これからは私が助けてもらう立場なので。
- これからはこれが1番重要である。
- 市の避難支援計画が欲しい。
- 市で設定した過去の支援システムは今どう活用しているのか。
- 地域ぐるみでの声かけや支援づくりはできていないと思われる。

8-1 具体的な内容（関係機関との連携）

- どんな連携が取れるのか検討したい。
- 現状維持。
- 買い物支援。
- 説明会等の開催。
- 年2回程、筋トレ、脳トレの講師として支援していただきたい。
- いつでも気軽に連携（相談）できるとよい。
- サロンを通じた連携。
- 適宜支援センター職員の話話を聞いたり交流を図る。
- 健康講座、買い物支援活動。
- 地域の課題解決のためにネットワークを確立していきたい。
- 情報提供の強化、及び協議会等の推進。
- 年1回の指導のお願い。
- 地域の課題解決のためにネットワークを確立していきたい。
- 地域包括支援センターの役割、機能の把握。
- 家事援助の対象者の把握と援助の実施。
- 児玉包括支援センターが主催するイベントへの協力。「オレンジカフェ」「ラジオ体操」。

8-2 課題（関係機関との連携）

- 自治会の方にコンタクトが取れない？
- 忙しい方々なので、40分も都合がつかかわからない。
- 市民に対する広報（活動）を積極的に。
- 人員減少が毎年続くこと。新入会員がいないこと。
- これからは私が助けてもらう立場なので。フレイル、認知症の予防。
- 問題が発生すれば相談する。
- 民生委員を通してということが多いです。
- どのような方が対象者と判断できるのかの見きわめ。
- センター等関係機関は何をどこまでの仕事か？

9-1 具体的な内容（その他）

- 障害者をケアしているケアラー対象のカフェの開催決定。（2023年4月から）チラシを作成しなおし配布先を検討して、多くの方に活動を知ってもらう周知活動を行います。
- 町の駅のメンバー自体が高齢化しており共に歩むサービスを提供している。
- サロンを続けられるか不安。
- 高齢者が多く活動自体が無理。四方田住宅に住んでいる方々との交流は無理で難しい。
- 定期的なふれあいまつりをやりたい。
- 各種団体に場所の提供や相談を広く進めていく。
- 豪雨、洪水の時等の高台避難所がないこと。
- 自治会と民生委員の協力を密にする。
- コロナが少なくなれば、いろいろやりたいと思っています。（旅行、カラオケ等）。
- 私自身が介護センターに行っている。
- フレイルの会員には自治会の役員を一緒に行い、人と話し合うようにしている。
- サロンを続けられるか不安。

9-2 課題（その他）

- 新会員が増えない（リーダーになれる若い人が参加しない）。
- ともかくやってみること。
- 豪雨、洪水の時等の高台避難所がないこと。
- 自治会として支援活動に力を入れていない。
- サロンへの男性の参加が少ないので課題である。
- 自治会、民生委員との連携。
- これからは私が助けてもらう立場なので。

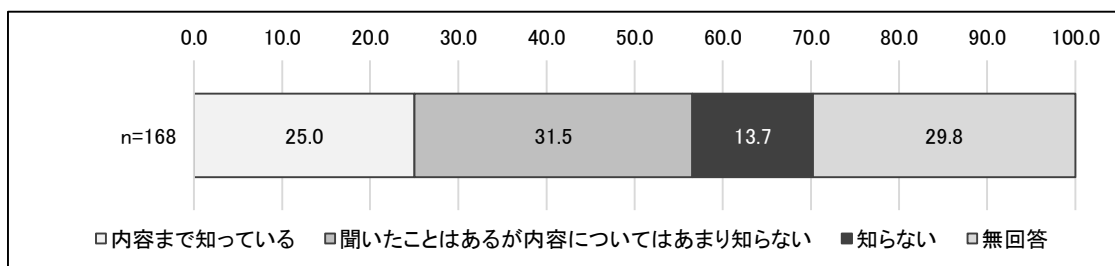
(3) 地域包括ケアシステムについての認知

問5 本庄市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、市民、地域の団体、関係機関、行政などが役割分担をしながら、共に支え合い、みんなで地域をつくっていく「地域包括ケアシステム」を推進しています。「地域包括ケアシステム」についてあてはまるものをご回答ください。

- 「聞いたことはあるが内容についてはあまり知らない」が3割強、「内容まで知っている」が3割弱を占める。「知らない」は1割強を占める。

地域包括ケアシステムについて知っているかたずねたところ、「内容まで知っている」が25.0%、「聞いたことはあるが内容についてはあまり知らない」が31.5%、「知らない」が13.7%となっている。

図表 地域包括ケアシステムについての認知（全体）



(4) 自由意見

問4 市へのご意見などございましたらご自由にご記入ください。

自由意見については以下のような回答があった。

- 私たちは歩いて生活を楽しむことのできる地域づくり「トホクラシ」(徒歩暮らし)、共に助け合うことのできる地域づくり「トモクラシ」(共暮らし)を提唱して活動をしています。できるだけ住み慣れた我が家で生活できる環境づくりを進めてほしい。
- ポケット・パーク後の土地の使い方？
- はにぼんプラザや公民館(アスピア児玉)の当日のスケジュール掲示板のことですが、利用団体名から開催内容のタイトルに変更していただく方が、参加者にわかりやすいと思いますので(毎日のことで大変かとは思いますが)是非変えていただきたいと思います。
- 毎月の定例会会場の充実をお願いします。民生委員・児童委員の担当(市職員)の民生委員・児童委員に対する態度や言葉づかいが、気になることがあります。
- 団体としては何もしていません。私個人としては、地区の夕焼広場やシニアクラブのおたよりをくばる時に、ひとり暮らしの方にはポストには入れず顔を見て話をします。
- 先日、サロン対象のスキルアップの研修がありました。その中で民生委員中心のサロンが多く、それが重荷になっているとの声がありました。毎週1回のサロンでは、体操の他に何か参加者の方が喜ぶことを考えると行き詰まってしまう。そんな中、社協・各支援センターの開催してくださった研修の中にゲーム等で楽しく過ごせるヒントがたくさんありました。こういった機会をつくっていただきサポートしていただけるとありがたいです。
- 会員の意見として、「参加する日は、朝、起きた時から、身体がシャキッとしてすがすがしい気分でいられる」という人が多い。
- 自身が高齢なのでどこまで書いて良いのかわかりません。
- 人手と費用は、活動に取り組むには、必要である。当会も70歳以上のつきみ荘での敬老会を止めたが、全市対象者へのアンケートで参加者が少ないことは当然である。これを前面に出せば、当会の中でも反対は出なかった。しかし、福祉を考えると逆に充実して参加者を増やしていくことが本筋だろう。市への要望(福祉)を聞く場(集会)もアンケートより案が出てくるのでは！
- 高齢者は、皆さんが耳が良く聞こえなかったり、目が良く見えなかったりする訳で、それを知らせること、耳も聞こえず、目も見えない人がいますので、それをどうして知らせるか考えてください。
- 市は自治会長にばかりまかせて、市自体は動かないですね。だから自治会長のなり手がいないのです。高齢者に対して何をどう行うか指導に来てくれてもいいのでは。
- 要援護者台帳などがあてにならず、本当に支援が必要な情報が自治会に届かない。市は何でも個人情報と言うがそれでは自治会は何もできません！
- 福祉部と社協との棲み分けが、わからない。
- 若い人の定住を考えないと高齢者ばかりになっちゃう。
- 市長や上司に忖度することなく、よいなあと思ったことこうあるべきだと思ったことは、首をかけてでも、実践してほしい。今の介護保険課は、やっていると思っています。
- 町の中がさびれて来て、町の外に店が多くなってきている。外出、買い物等不自由している。もう少しスムーズに行ければ安心して免許返納もできると思う。体操に来るにも苦勞している人がいる。
- 高齢者を中心とした、敬老会のようなイベントを4月か5月頃も実施したらどうか。高齢者に活気が出ると思う。
- 近い将来、日本(本庄市)は、後期高齢者(5人→1人)になります。高齢者が元気で生活が楽しく暮らせるような社会になるよう高齢者の元気対策を推進してほしいと希望します。

- 高齢者は、日々人生の残り少ない時を感じながらも、子どもたち、関係者に迷惑をかけないように、自分に合った方法で元気付けし、生活している。近年、社会保障費の増大は、高齢者の所為の如く言われている。生産人口の減少は、高齢者の責任ではない。皆が願っていることは、『人生の最後は自宅で』。「在宅医療・介護」の体制を早急に確実に実現していただきたい。
- 高齢者に関わる活動の中でも、記載した項目は取り組みたいと思いますが、他のボランティア団体と同様、当 NPO 法人の構成員も高齢化が進み、かつ新会員の加入が見込みなく、諸活動が非常に難しくなっているのが現状です。現状のボランティア団体の高齢者に関わる活動は、いわゆる”老々支援”の状況にあると言えます。これらを考える時、最早一団体で活動を構築・維持していくのは限界があり、関わる活動の種類によって、一つの課題を複数団体で共同で取り組むなどの、仕組みづくり（共同運営、側面支援等）が必要と考えています。
- 80 歳のため何もできません。
- 本町区は駅通りを界に東包括と西包括と分割されている。本町区は駅に向かって右は（銀座・中央）西包括、左は（本庄）で東包括。担当包括が分割され、会議の時も不便で是非、学校区の制度を願うものです。
- 諸般の事情により以下の通りに決定。□いきいきサロン上町は廃止。□町内の高齢者のことはシニアクラブ上町豊寿会に一括。以上。
- 可能な限り援助したい気持ちはありますが、今後取り組んでいきたい活動については、どこまでやってあげて良いものか悩みます。
- 施策ばかりで、市民のための本当の支援や協力体制が必要である。計画や組織づくりばかりで中身がない。一方的で解決できなく、市民も何を言っても変わらないからと、無関心の方が増加している。時代の変化にまったく追いついていない。縦割りが非常に強いと思う。市民の意見を聞くが、なされていない。
- 高齢者の交通問題について、はにぼん号は一定の効果はあると思いますが、用事を済ませ帰路の足としては不便。タクシー割引チケットなど発行し併用したらと（利用者負担は半額以下程度に）。
- 今後、高齢化社会が進むにつれて、市民及び関連団体との連携が重要になると考えられます。個人情報保護の問題もあり、情報の共有が難しい中ですが、協力体制を取れると良いので、市としてご一考をお願いします。
- 現在、定年が延長され、これは大変良いことと考えるが、仕事を持ちながら民生委員、高齢者の支援をするなどは非常に難しくなっている。また、今回の新型コロナの関係で高齢者に関わる活動もすべてストップした状況であり、これを打破していくために、行政からのアドバイス、支援をお願いしたい。
- 各家庭に入ることが難しいので、どのように支援していくのが良いかわからない。
- 問3については今後自治会として検討していきたい。現在すぐに回答は難しいと考える。
- 会場使用料への支援。
- 公民館に来ている人は、車を有し、運転のできる人に限られています。現在開かれている各種の活動団体とは別に、徒歩、車いすでも参加できるようなことを考えていただきたい。
- 宮戸には、老人会にあたる組織はありません。しかし、宮戸レクリエーション大会（11 月に実施）という、子どもから高齢者まで一同を介して楽しめるイベントや、普段から自治会役員と高齢者が話しやすい環境づくりをすることで、必要な手助けができるのではないかと考えています。
- 私たちは後期高齢者が多いので、新しいことはなかなかできませんが、会員たちの生きがいづくり、居場所づくりになっている状態です。しかし常に困っている時には声かけしお手伝いしたい気持ちを持っています。
- この3年間コロナ感染症により、近所同士の和がうすれてきており、高齢者が外出をきらって外に出られなくなり、ますます孤立してしまいました。何か高齢者に集まっていただけのイベントの開催（各地区のサロン等）を増やしていくことが必要と考えております。
- □緊急医療情報キットは特にひとり暮らしのお年寄りには必要と思われます。70 歳以上のひとり暮らしの人たちに配布したらどうかと思います。□筋力 up 体操をしている場所には是非昇旗をつくってください。
- 本来市がやるべきことを地域に委ねすぎているのではないか。

- 私自身が高齢者（現在 76 歳）になったため、事故等を起こす前に 75 歳をもって活動していません。廃止する手続に関する金額が高いので手続を取っていません。介護予防健康アドバイザー講座を受講してはいますが、どうなるか不明の状況です。
- はにとれクラブといきいきサロンはほとんど同じ人たちが参加しています。社協からの補助金（助成金）をいただけるようになり、これからも筋トレだけでなく居場所づくりに頑張りたい！参加者の皆さんには自主的にいろいろな行動ができるよう少しずつ進めています。
- 敬老会補助のような（イベント）が各町内または市主催でできると高齢者が楽しめる。敬老会を含め年 2 回。記念品は生活用品（タオルとか洗剤）が良いと思う。本庄市の高齢者に活気が出るように思う。
- 市で作成している本庄市避難行動要支援者が実態と思っている。作成するにあたって自治会、民生委員の意見を取り入れたものにしてほしい。
- 町の中でお年寄りが気軽に日なたぼっこできるような場所が、たくさんあれば良いと思います。
- コロナ禍が 3 年続いたが、この間本庄市のコロナによる死亡者数は公表されていない。発表すべきだと思う。また入院可能な病院も増加すべきだと思う！！
- 共栄自治会は、ほとんどが家族と住んでいるので、今の所はあまり心配いらないが自分たちが数年後どうなるのだろうか考えると恐ろしい。若い人のボランティアをどうにか取り込んでほしい。
- 元気に長生きできる支援や、群馬県まで行かなくて済む医療体制を構築ください。
- 講師派遣。
- 今回のアンケートでは団体名（西五十子ふれあいいきいきサロン）として回答させていただきました。サロンとしての活動では、設問の 9 項目の実施については、難しいです。自治会、老人会、民生委員としての回答であれば違った回答になると思います。
- □民生委員としては、避難行動要支援者の支援を推進するには、民生委員協力委員を位置づけ（旧民生委員等）、日ごろから、対象者を見守る組織をつくっていきたい。□高齢者のひとり暮らしの認知症の方への対応で、24 時間対応が必要であり、専門機関での対応だけでは、解決できないことが起きている。抜本的な対応が必要に思います。
- 現在は子どもを中心とした非営利事業（学童保育、放課後等デイサービス相談支援事業（障がい児）の運営）を通じて地域社会に貢献することを主眼としていることから、高齢者に関わる活動には取り組んでおりません。ご了承願います。
- 年々高齢化が進む中で、今高齢者団体が希薄になり弱体化（会員が少なくなる一方で）あり、行政の強力な指導と支援をお願いします。
- コロナの感染状況（特に本庄）を詳しく教えてほしい（死亡人数含む）のと、活動の中止等の指示をお願いしたい。
- □高齢者対策は市でもいろいろやっていると聞いています。□最近（15 年位児童の登校時の見守り）子どもの少なさが気になっています。（自分が子ども会、PTA 役員時から見ると、西小平地区で子どもが少）。将来は子どもが少ないのはいろいろな影響が大きいと思います。国の少子化対策が 20 年遅いと思っています。
- 高齢者宅への訪問を頻繁に行ってほしい。
- 問 3、3～8 については、小島南自治会と協賛にて、特に高齢者への声かけ、見守りを中心に、実施していきたいです。要は自宅にいるのみではなく外出をし、話のできる場所と相談等を強化。
- 免許証の返納等で外出が困難になっている。福祉タクシー等の充実を。
- 地域包括支援センター対応、事故により身体不自由の対応。住宅等改装。補助金等について、説明願いたい。
- コロナで 3 年以上活動を休止中、年に 1 度は活動開始に会員全員に通知するも、参加者少数にて中止。令和 5 年度も活動ができるようになるが、また 3 年以上の休止中、高齢化が進み最近当共寿会もこのままでよいのか検討中。
- 高齢者を中心としたイベント等（敬老会のようなもの）が 5 月か 6 月あたりに開催されると高齢者の喜びにつながると思う。
- 沼和田地区は農業振興地区でもあり、老人会に入るより農作業が優先され入会者が減少している。今後農作業をやる人も減少し、荒れほうだいになると予測されます。まずは人口を増やすこと、農地を宅地化、工業誘致化に使えるように検討し、若者及び老人を増やしていくべきだと考えます。462 号、これからの 17 号バイパスを生

かした土地利用を考え、人口を1人でも多く増やし、農作業も老人会も長く続くようにしてほしい。一部農地でも隣接する所なら農家以外の人でも買って家がつけれる。主要道路に面した土地も一般人でも買えて家を建て人が増えるように考えてもらえないか。

- 今私は83歳で元気ですが、いつ皆様方に助けてもらうかわかりません。本庄市内では多数の方たちが誰にどこへどのようにして連絡して助けてもらう、場所や電話番号等もわかりません。本庄市ではどのような資料等があるかPRして市民に教えてください。
- 災害時における対策が一番の問題点だと思います。おそらく消防、警察、行政も支援ができない状態と思われます。どうしたらよいか、今の内に早急に検討しておくべきだと思います。
- 老人会としては、活動する会員の減少が見られます。行事内容を考えると、健康に関する行事は行われていますが、地域の課題に取り組む老人会を再考していかなければならないと思います。地域の課題を地域で考えていく、この活動で老人会の役目がわかってくると思います。それには、仮称：困りごと相談隊を組織し、地域づくりをしていくことが大切と思う。
- 一団体においてこれから課題があっても、取り組むことは困難と思われる。よって行政において要望に適応した対処が必要と思われます。会員が高齢化し、自ら行動できる範囲も限られ、適材適所の仕組みづくりも必要と思われます。
- 自治会、老人会、他役職等、参加、活動できる人がいない。身体が動ける人は仕事を持っていて参加できない。仕事のない人は老齢、あるいは病気等で参加がままならない。自治会の仕事は受けてくれる人がいない。
- 令和2年から役を受けましたが、さっそく新型コロナ感染が発生以後、まったく無関心で何も実施していなかった。今後については前向きに考えて、取り組んでいきたいと思っております。
- 高齢者の多くの問題への老人会が関わってほしい事項ありますが、とても、そこまでは考えていないし、また、できません。高齢者としての運動や旅行などで体力upや認知症などに役立つことぐらいです。
- 私事、会長となって日が浅いため、これから勉強し努力して参りたいと思います。
- (活動状況) 私の老人クラブは旧七軒町管内を区域とし、現在40名の会員組織で活動している。平均年齢83.7歳で、できる活動も限られます。したがって社会的活動は難しく、できる範囲で活動しております。なお、随時「桔梗会だより」の広報紙を発行し、会員とのつながりを図っている。
- 高齢者も一般健常者と同じ、老齢のための劣化分の支援が一部あればいいのではと思う。本人のために。余計なお世話とならない仕事を是非できればと思う。活動参加者の決定、取り組む目的をしばらくこみ、目的ごとの同好会づくり。役割係のモチベーション(責任体制)確立。市でリードして実績を上げる。
- 視覚障害者へのガイドヘルパー制度の充実をお願いしたい。各種公共施設のユニバーサルデザインの検証を徹底してほしい。
- 会場まで距離のある参加者の送迎を、会員同志あるいはサポーターの好意で行っているため、はにぼん号の利用等考えた場合、料金の問題が発生する、このため「利用してほしい」とお願いしにくい。
- 問3については、問2の内容を基本として当サロンは活動しています。全体の課題としては、全員が後期高齢者なので、若い人の入会者がいないことです。(年寄りの集まりと思われる。)参加してもらえるいい方法があったら教えていただきたいです。
- 屋外活動を行いたいが、サロンでの団体10人~15人くらいですが、郡内への移動に苦慮しています。はにぼん号の利便性向上を希望します。
- 買い物や通院の時に自分で行けない人がタクシーを利用する場合に市の方から何らかの支援はあるのですか？
- 地域包括支援センターとの会議をしてもらいたい。

